

## 経営協議会委員からの意見等に対する取組状況

(令和4年度)

| 回  | 年月日           | 学外委員からの意見等  | 大学の取組状況   |
|----|---------------|---|---|
| 85 | 令和4年3月<br>11日 | <p>&lt;議題&gt;その他</p> <p>社会への広報や卒業生とのつながり醸成において、デジタル技術をうまく活用し、高知大学のプレゼンスを上げてほしい。</p>   | <p>大学広報については、公式ホームページや SNS による情報発信を強化しており、今後はさらにアクセスの解析を進め、広報戦略へ活用する。また、入試広報においては、四国地区国立大学連合アドミッションセンターの新たな取組として、令和5年3月に四国の国立大学合同の「メタバースオープンキャンパス」を開催した。同イベントでは、参加者が会場（バーチャル空間）内をアバターで自由に移動し、興味のある大学ブースを訪問できる形式を採り、デジタル技術を活用し高校生が参加しやすいものとした。</p> <p>加えて、令和5年11月に立ち上げる「校友会」業務を実施していく中では、大学コミュニティの活性化に特化したシステムを採用することを予定している。デジタルツールを活用して校友会の組織運営や情報発信を効率的に行うとともに、マーケティング結果を踏まえた寄附金募集の促進を図ることで、本学の支持基盤をより強固なものとする。</p> |
| 88 | 令和4年9月<br>22日 | <p>&lt;議題&gt;その他</p> <p>国からの研究費が競争的資金へ偏り、国立大学法人運営費交付金などの基盤的経費の配分が非常に厳しいということは十分に理解している。大変難しいと承知したうえで、敢えて大学が教員に配分する研究経費の充実を検討していただきたい。</p> | <p>令和4年度以降本学では、本学の研究の強みを生かし、国際通用性と地域貢献性を兼ね備えた研究を推進することを目的とする「基幹研究プロジェクト」を5件立ち上げるとともに、若手研究者の自由な発想による独創的で斬新な研究を支援する「ユニット的ボトムアップ研究プロジェクト」を10件採択した。これらに係る研究経費の充実により、本学の研究力強化を計ることとしている。</p> <p>また一方で、国からの基盤的経費の配分が非常に厳しい状態が続く中、外部資金の獲得と自己資金の増加が重要な課題となっているため、第4期中期計画においては、</p>  |

| 回  | 年月日           | 学外委員からの意見等   | 大学の取組状況   |
|----|---------------|--|---|
|    |               |  | 若手研究者の科学研究費助成事業の採択率の向上や外部資金獲得の数値目標を設定している。  |
| 90 | 令和5年1月<br>27日 | <p>＜議題＞その他</p> <p>学内プロジェクトや外部コンサルティングを活用した支出の削減に取り組むとともに、リカレント教育の充実、保有不動産の活用、大学発ビジネス等により収入増を目指す必要がある。収入につながるシーズは大学にはたくさんあるが、どのように実行するかが鍵である。</p> | <p>学外組織であるが（株）高知銀行や（株）地域経済活性化支援機構（REVIC）との連携協力の下、令和3年12月に大学発ベンチャーの創業・経営支援を目的としたベンチャーキャピタルである（株）高知産学連携キャピタル（AKAC）の設立に貢献した。これにより令和4年1月には高知県内高等教育機関の大学発ベンチャー等のスタートアップ支援として約2億円の「高知県発ベンチャー投資事業有限責任組合」が組成され、令和5年5月に第1号案件として本学大学発ベンチャー（（株）Plastifarm）への投資が決定された。</p> <p>本件においては、昨年度整備した「国立大学法人高知大学が取得した株式等の管理規則」に基づきライセンスの対価として新株予約権（ストックオプション）による株式等の取得が予定されており、将来の上場時における新株予約権の行使によって売却益が期待されている。</p> <p>リカレント教育の一環として、これまで実施してきた履修証明プログラム「土佐フードビジネスクリエーター（FBC）人材創出事業（平成20年度開設）」及び「四国病院経営プログラム（平成30年度開設）：受講者15人」に加え、令和5年度より新たに「ヘルスケアイノベーション履修証明プログラム：受講者5人（令和5年度）」を開設した。</p> <p>食品関連事業者向けの社会人リカレント教育プログラムである土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業（土佐FBCIV）においては1事業期間を5年間とし、令和5年度からは第IV期（16年目）がスタートした。</p> <p>事業予算については、人件費の一部を含め毎年度運営費交付金から予算措置されているところであるが、高知県の寄附講座やIoP事業補助金をはじめ講習料収入、企業</p> |

| 回 | 年月日 | 学外委員からの意見等 | 大学の取組状況  |
|---|-----|------------|--|
|   |     |            | <p>等寄附金、広告協賛金など多様な財源確保に努めており、これらの資金を活用することにより運営費交付金の支出削減につなげている。(令和4年度決算額で約120万円の減額、事業予算全体の運営交付金の占める割合約35%)</p> <p>四国病院経営プログラムは、「実践力」を備えた病院経営者を養成するプログラムとして、平成30年度に開設され、令和4年度には、医療関係者15名が受講した。当院プログラムは5科目以上の受講を義務付け、1人あたり約15万円の受講料を設定している。</p> <p>ヘルスケアイノベーション履修証明プログラムは医工連携をベースに人・組織・社会の健康を目指しイノベーションを推進する人材を養成するプログラムとして、令和5年度から開設するよう令和4年度に準備を進めた。当プログラムは6科目以上の受講を義務付け、1人あたり約9万円の受講料を設定している。(参考：令和5年度受講者5人)</p> <p>土佐FBC参考URL：<a href="https://tosa-fbc.jp/">https://tosa-fbc.jp/</a></p> <p>四国病院経営プログラム参考URL：<a href="http://www.kochi-u.ac.jp/kms/koudo/outline/index.html">http://www.kochi-u.ac.jp/kms/koudo/outline/index.html</a></p> <p>ヘルスケアイノベーション履修証明プログラム参考URL：<a href="https://www.kochi-u.ac.jp/kms/kmshi/information/2022/005/">https://www.kochi-u.ac.jp/kms/kmshi/information/2022/005/</a></p> |

| 回  | 年月日           | 学外委員からの意見等                                    | 大学の取組状況  |
|----|---------------|---|--|
| 90 | 令和5年1月<br>27日 | <議題>その他<br>学生教育については、金融リテラシーを身につけさせる教育も重要である。 | 共通教育教養科目では、金融をテーマとした「はじめての金融経済」を毎年度開講し全学部生が金融に係る基礎的な知識を身につけることが可能となっている。また、人文社会科学部では「国際金融論」、教育学部では「消費生活論」、地域協働学部では「会計学概論」、「金融・税務実務講座」等の専門科目を開講し金融の専門的な知識を修得することができる。<br><br>高知大学シラバス URL : <a href="https://www.kochi-u.ac.jp/campus/life/syllabus/">https://www.kochi-u.ac.jp/campus/life/syllabus/</a> |